

2019年



アヴィニョン、 躍動的、革新的で魅力的な あなたの旅の目的地

個人 - 団体 - MICE

目次

- 3 見逃せないユネスコ世界遺産を
発見する
- 4 教皇庁宮殿
- 5 アヴィニヨン橋
- 6 美術館・博物館
- 7 豊富な遺産に
驚嘆する
- 8 ワイン文化を
学ぶ
- 9 プロヴァンス料理を
堪能する
- 10 活気ある街に
魅了される
- 11 バルトラス島で
自然を楽しむ
- 12 アヴィニヨン
近郊を観光する
- 18 年間を通して
驚かされる
- 20 アヴィニヨン近郊
- 21 カスタマイズされたイベントの実現には
アヴィニヨンをお選びください
- 22 アヴィニヨンにお越しになるには
アヴィニヨンが皆様のお役に立たせていただきます
- 23 時間帯・料金



—TOP—
FRENCH *The best way*
CITIES *to experience France*

編集：アヴィニヨン観光局、2018年9月、フランス語版
3800冊。

レイアウトとページ組み：
アヴィニヨンのAgence Saluces
印刷： Orta-

フォトレジット - All rights reserved :
Empreintes d'Ailleurs / F. Olliver / E. Catoliquot /
G. Quittard / Aurelio Rodriguez / CDT de Vaucluse
- V. Gillet / Thomas O'Brien / © D.R.



環境保護のために、本案内書はIMPRIM'VERT (グリーン印刷)
認定された印刷会社により印刷されています。
In our ongoing effort to increase environmental
protection, this guide is printed by a green
IMPRIM'VERT printer.

ユネスコ 世界遺産

発見する

見逃せないユネスコ世界遺産
を発見してください



歴史的都市の中心！

中世カトリックの首都アヴィニョンには、ユネスコ世界遺産にも登録されている部分も含む、稀に見る歴史的遺産がしっかりと保存されています：教皇庁宮殿 (Palais des Papes) やアヴィニョン橋 (Pont d'Avignon) をはじめ、造幣局のバロック様式のファサードが見事な宮殿広場、プチ・パレ美術館 (le musée du Petit Palais)、ノートルダム・デ・ドン大聖堂 (la métropole des Doms)、デ・ドン公園 (le jardin des Doms) から橋までの城壁など。

アヴィニョンから車で40分の所にも、ユネスコ世界遺産に登録されている名所があります：オランジュの古代劇場と凱旋門、アルルの古代ローマ建造物 (円形闘技場と劇場) とロマネスク様式建造物 (モンマジュール修道院 - abbaye de Montmajour)、ポン・デュ・ガール (le Pont du Gard) など。

アヴィニョンから車で1時間の所には、セザンヌにちなんだ観光名所とサント・ヴィクトワール山 (la Montagne Sainte Victoire)、カマルグ自然公園 (le parc naturel de Camargue) やマルセイユの停泊地があります。



教皇庁宮殿

『彼らは教皇の宮殿であるアヴィニョンの大文字のAに向かって上った；彼らのまなざしは空の中へと消えてゆく垂直の素晴らしい終幕を探し求めたのだった…』

エルザ・トリオレ

14世紀に建造されたローマ教皇の壮大な住居が、世界で最も重要なゴシック様式の宮殿を構成しています(床面積15 000 m²、ゴシック大聖堂の4倍の大きさ)。宮殿内には見学の場が20カ所以上もあり、教皇のプライベートなアパートマンや、イタリア人芸術家マッテオ・ジョヴァネッティ(Matteo Giovannetti)作の見事なフレスコ装飾も見るすることができます。

宮殿では、年間を通して定期的に文化イベントが催されています：テーマに沿った教育的な展覧会やテーマ別見学ガイド、コンサートなど。

1947年にジャン・ヴィラルール(Jean Vilar)によって始められた、アヴィニョン演劇祭(Festival d'Avignon)の上演は、毎年7月に宮殿内の中庭(la Cour d'Honneur)で行われます。



Histopad

対話型タブレットHistopadにより、来館者も楽しみながら見学ができるようになりました。科学委員会が完全監修した華々しい歴史の再現をタブレットで見ることができます。

Histopadは子供向けにインタラクティブで遊び心のある「宝さがし」も提案しています。

7か国語対応、Histopadの使用料金は入場料金に含まれています。



ヴィブラッション - VIBRATIONS

(8月中旬～9月下旬)

独自のテクニックパフォーマンス

プロジェクションマッピングのスペクタクルの多くが、ひとつのファサードに映写されるのに対し、ヴィブラッションのモニュメント映像は教皇庁宮殿の中庭(la Cour d'Honneur)の4つのファサードに同時映写されます。

このテクニックのおかげで、ショーに没頭して独自の体験をしつつも、すべてを見尽くしたという印象を持たずに何度でも観ることのできるスペクタクルに仕上がっています。

www.avignon-vibrations.com

アヴィニョン橋

アヴィニョン橋の上で、踊るよ、踊るよ...

「世界中のどこに行っても私がアヴィニョンから来たと言うと、相手は『アヴィニョンの橋の上で』を歌うんですよ。いつもそれを不思議に思っていました。マルセイユ人には『マルセイエーズ』、ルルド人には『典礼歌』を歌わないのに…」

アヴィニョン市民のコメント

13世紀に建造されたこの有名な橋は、何度も損傷を受け、相次いで起こった戦争とローヌ川の洪水の後に再建造されました。

しかし、改修工事は17世紀に中断されます：本来22つあったアーチは4つのみが残され、現在の個性的な姿になりました。

橋の上の散歩では、ヴィルヌーヴ・レ・ザヴィニョン (Villeneuve lez Avignon)、教皇庁宮殿、城壁、プティ・パレを望む素晴らしい風景を見ることができます。



マルチメディア・タッチスクリーン・タブレット

2つの時代(1350年と1650年)の拡張現実による3つの眺望、オーディオコンテンツ、画像ギャラリー、1550年にいるかのような体験映像、有名なアヴィニョン橋の歴史に関する研究に参加した考古学者や歴史学者たちの証言。

追加料金 2 € (仏語・英語)

オーディオガイド

11か国語対応の無料オーディオガイドが、映像と音声での説明と共に橋の歴史と聖ベネゼの伝説について楽しく語ります。

目でご不自由な方にもご使用いただけるタッチ式のオーディオガイドや、お子様向けオーディオガイド(仏・英語)もご用意しております。



美術館・博物館

探究
してください

イタリア絵画、芸術、彫刻、装飾美術、現代美術などに興味をお持ちですか？アヴィニョンの博物館・美術館が皆様を歓迎いたします。



Avignon-muséesラベルのアヴィニョン市立美術館(①～⑤)はどなたも入場無料です(企画展を除く)。



①

① **プティ・パレ美術館(Musée du Petit Palais)**- 入場無料: 14世紀に建造された大司教の館は、現在、プリミティブ・アートとポッティチェリ作聖母子の作品1点も含むルネサンス美術専門の美術館として使用されています。さらに: 美術館の家庭的な庭園にあるサロン・ド・テでの休憩がおすすめです。



②

② **カルヴェ美術館(Musée Calvet)**- 入場無料: 18世紀の見事な私邸内にあるカルヴェ美術館は、カミーユ・クロードルやボナール、シスレーの作品も含む充実したコレクションを所蔵しています。さらに: 剥製のナイルワニもお見逃しなく!



③

③ **ラビデール博物館(Le Musée Lapidaire)**- 入場無料: イエズス会団の旧シャベルにあり、カルヴェ美術館の古代芸術ギャラリーでもあるこの博物館は、ギリシア、古代ローマ、ガロ・ローマ時代(当地方で発掘されたものも含む)と初期キリスト芸術のコレクションを展示しています。



④

④ **ル・パレ・デュ・ルール(Le Palais du Roure)**- 入場無料: 15世紀の旧私邸。現在はプロヴァンス文化・歴史博物館。



⑤

⑤ **自然史博物館(Le musée d'Histoire naturelle)**- 入場無料: 所蔵コレクションは、プロヴァンス・アルプ・コートダジュール地域圏で最も豊富な内容であり、地方の自然史博物館としては国内で5番目の規模です。



⑥

⑥ **ジャン・ヴィラル館(Maison Jean Vilar)** ジャン・ヴィラル(1912-1971)の作品や1947年に彼が創設したアヴィニョン演劇祭に関する資料・文献の所蔵、展覧会、出版などを運営。ポスター、原稿、衣装、模型など。



⑦

⑦ **アングラドン美術館(Musée Angladon)** - 有料: まるで私邸のように改装された18世紀の素晴らしい建物には、オートクチュールの創始者の一人であるジャック・ドゥーセ(Jacques Doucet)の美術コレクションが収蔵されています。18～20世紀の作品: ヴァン・ゴッホ、セザンヌ、ドガ、マネ、シスレー、ピカソ、モディリアーニ、J. ヴェルネ、シャルダンなど。歴史展示室とオリент展示室。



⑧

⑧ **ヴラン美術館(Musée Vouland)**- 有料: 庭園が広がる魅力ある私邸内にある美術館。17～18世紀の装飾美術の豪華なコレクション。



⑨

⑨ **ランベール現代美術コレクション(Collection Lambert)**- 有料: 近代芸術美術館。美術商でありコレクターのイヴォン・ランベール(Yvon Lambert)の贈与によるコレクションを常設展示。ソル・ルウィット、ダグラス・ゴードン、ジャン＝ミッシェル・バスキア、アンゼルム・キーファー、ニエレ・トロニ、アンドレス・セラーノなど。現代美術アーティストの企画展も開催。



豊富な遺産

豊富な遺産に
驚嘆してください！

アヴィニヨンの路地を散歩すること、それは屋外博物館を見学するようなものです。

上を見上げてみてください：マスカロンやガーゴイル、彫像が目に入ることでしょう。

数々の私邸の彫刻が施された門やファサードの前で驚嘆してください。

小さな公園や木陰のある広場に偶然たどり着いて、教会や内庭回廊の門を開けてみれば…静寂さと涼しさを感じることでしょ

ノートルダム・デ・ドン大聖堂 (La Métropole Notre-Dame des Doms) ①

教皇庁宮殿近くにあり、黄金の聖母像がそびえるロマネスク様式の大聖堂。

さらに：ロシェ・デ・ドン公園 (les jardins du Rocher des Doms) 内を散歩し、近隣の田舎を一望する風景をお楽しみください。

サン・ピエール教会 (La Basilique Saint-Pierre) ②

木陰のある静かな広場に面したサン・ピエール教会は、富で満ちあふれたフランボアイヤン・ゴシック様式の教会です。

さらに：夜の素晴らしいファサードが見物です。

シナゴグ (La synagogue) ③

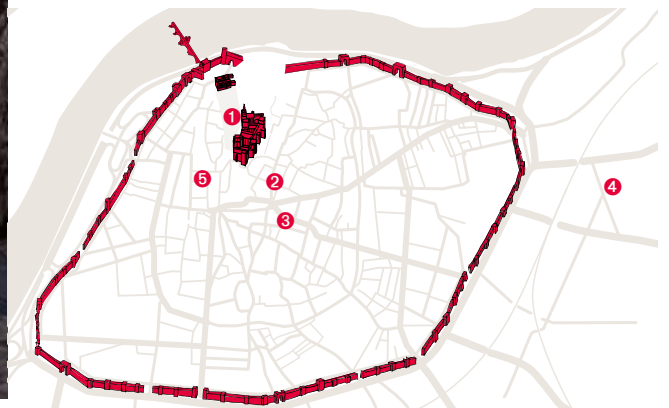
丸みのある形をした世界でも珍しいシナゴグのひとつです。

サン・ヴェラン墓地 (Le cimetière Saint Vérant) ④

パリのペール＝ラシェーズ墓地に並ぶ、フランスで最も古い墓地のひとつ。そこはまるで彫刻と墓石装飾の野外美術館のようです

オペラ座 (L'opéra) ⑤

19世紀の美しいファサードとコルネイユとモリエールの彫像が特徴。



ワイン

ワイン文化を 学ぶ

コート・デュ・ローヌのブドウ畑は、AOC(原産地統制呼称)に格付けされたフランス第二のブドウ産地です。アヴィニョンがその中心地であることをご存知ですか？

ワインのテイスティングとは、名称やヴィンテージを当てることではありません。外観、匂い、味など、異なる感覚を分析することなのです。

楽しくわかりやすい入門講座では、ワインの繊細さすべてを堪能するためのワインテイスティングを学んでいただけます。



Le Carré du Palais 教皇宮殿正面にあるル・カレ・ドゥ・パレ(le Carré du Palais)

ここにあるワイン学校では、年間を通してアトリエや研修を提案しています。

スーズ・ラ・ルス(Suze-la-Rousse)のワイン大学と提携して念入りに作られたプログラムは、初心者から知識の豊富なワイン愛好家までどなたでも受講できる内容となっております。

お問い合わせ : クレモン・デュラン
(Clémence Durand)
+ 33 (0)4 65 00 01 01
ecoledesvins@inter-rhone.com

ル・カレ・ドゥ・パレは、レストランや800種以上の銘柄を揃えたワインテイスティングの場としてもご利用いただけます。営業時間: 毎日、8:00~24:00。

楽しむことを知らない方は来館をお控えください!
お問い合わせ: www.carredupalais.fr



料理

プロヴァンス料理を 堪能する

有名レストラン、クリスチャン・エティエンヌを受け継いだギレム・セヴァン(Guilhem Sevin)をはじめ、ジュリアン・グレイズ(Julien Gleize - l'Agape)、マチュー・デマレ(Mathieu Desmaret - Pollen)などの若きシェフ達。真の感動を与えるべく、地元の食材に発想を得ながら独自にアレンジした料理を作り上げています。

アヴィニョンでは幅広い選択肢のある上質のレストランを見つけることができます。



レ・アル(屋内市場)で料理体験を楽しむ あなたの中に眠るシェフの才能を開花させましょう！

カリフォルニア出身の若きシェフ、ジョナサン・チリ(Jonathan Chiri)のカラフルで活気あるアトリエ。アメリカ、ヨーロッパの数あるレストランで経験を積んだ彼は、ここ「ラ・キュイジーヌ・サントラル(la Cuisine Centr'Halles)」に軒を構え、そのエネルギーを料理に注いでいます。

歴史ある市場の中心で、レストラン業と同時に料理教室や実演(料理教室に代わる簡単で楽しい実演)を提案しています。

ユーモアあふれる雰囲気も魅力の一部です。

お問い合わせ: contact@jonathanchiri.com
www.jonathanchiri.com

クリスチャン・エティエンヌのレストランでの料理体験 並外れた料理体験！

30年来、星を保持しているレストラン、クリスチャン・エティエンヌ。音響デザイナーと共に厨房の雰囲気を経験しながら料理を味わう演出を行っています。

お食事の途中で音が途切れると、ヘッドフォンがお客様に渡され、これからまさに味わう料理に関連する調理音を聞くことができます。

お問い合わせ: contact@christian-etienne.fr
www.christian-etienne.fr

お出かけ

活気ある街に
魅了される

アヴィニョンで最も絵になる場所のひとつ、タンチュリエ（染色工）界隈（le quartier des Teinturiers）では、製造者組合が20カ所に及ぶアート、クリエイター、美術工芸を紹介する場所をまとめています。デザイン、テキスタイルアート、装飾、ファッションアクセサリー、都会的な文房具店、家具、現代美術など分野は様々です。

活気と雰囲気の良さはお墨付きです！

数多くのレストラン、バー、今話題のショップがあるサン・ディディエ界隈（le quartier Saint Didier）やデ・コール・サン広場（la place des Corps Saints）がおすすめです。

ル・グラン・カフェ・バレッタ、アットホームで革新的なプロジェクト。

その名の起源である最初のカフェがあった場所に作られた、ル・グラン・カフェ・バレッタ（Le grand Café Baretta）は、パリのブラスリー「ブイヨン・カルティエ」から発想を得た、アールデコ様式の雰囲気が素敵な皆の憩いの場です（総面積500 m²、年中無休）。

ナポレオンが、その時代としてはかなり高額であった60フランの付けをここに残したというエピソードも残っています。

お財布に優しいアットホームな料理を提供。

カフェには、エノキの木がある120席のオープンテラスや本棚のある板張りのミニサロンもあります。150席の明るい大ホールは、アヴィニョン演劇祭期間中の7月には劇場に変身します。

お問い合わせ：richard.hemin@wanadoo.fr

市内中心部にあるリラクゼーションの場、ル・ニ（Le Nid - 日本語で「巣」の意）でくつろいだひとときを過ごしましょう。

ル・ニではヨガ教室やマッサージ教室、アトリエ（刺繍、織物、マクラメ、アップサイクルなど）を提案しています。ご依頼があれば、アヴィニョンの象徴的な場所（教皇庁宮殿、博物館・美術館、私立庭園など）でのヨガ教室も企画しています。

ル・ニの食堂では「ヘルシーフード」メニューを提案。

フランスで唯一の場所です！

お問い合わせ：inspireyogaavignon.fr

ストリートアートに関心を持つ

アヴィニョンのステンシルアーティストで画家のヨハン・ラギャルド（Yohann Lagarde）の協力を得て、アヴィニョン・ツーリズムがストリートアートの散策コースを作り上げました。簡素さと情熱を持って異なるテクニックに挑む彼のアトリエ「Produit Conforme」もコースに含まれています。

散策

バルトラス島で 自然を楽しむ

アヴィニョンにも島があるのです！

歴史的な中心街からも徒歩数分、アヴィニョンとヴィルヌーヴ・レ・ザヴィニョンの間にあるローヌ川の2つの支流 - ヴィルヌーヴ側の大ローヌ、アヴィニョン側の小ローヌ - に挟まれたバルトラス島 (l'Île de la Barthelasse) は700ヘクタールの自然と静けさを有しています。

島を一周するには自転車がおすすめ。サイクリングコースが数多く設置されています。

散策の際には、農園で地元の特産物を購入したり、マンガン蒸留所 (la distillerie Manguin) を見学したりもできます。自然の中、平らな道をのんびりと散歩するのもおすすめです。

とても静かで快適な河岸沿いの道からは、アヴィニョン橋の素晴らしい風景を望むことができます。ジョギングや散歩、さらに緑の中で空想にふけるには理想の場所です。

ローヌ川クルーズ(散策クルーズ船 - ローヌ川でのランチやディナー - カヤックのレンタル)も可能です。



観光コース

アヴィニョン近郊を 観光する

フォンテーヌ・ド・ヴォークリューズ(Fontaine de Vaucluse)、モン・ヴァントゥ(le Mont Ventoux)、ルシヨンの黄土の崖、リュベロン地方と鷹の巣村、カマルグとローヌ川のデルタ地帯、ポン・デュ・ガール、レ・ボー・ド・プロヴァンス(les Baux de Provence)やアルピーユ山脈など、アヴィニョンを出発してすぐに多彩な観光スポットにたどり着くことができます。

享樂の週末をご希望ですか？

1日目 レ・アルにてシェフ、ジョナサン・チリとの料理教室、あるいはル・カレ・デュ・パレでのワイン醸造学のアトリエ。

午後は、製造者のアトリエを訪れながらタンチュリエ地区とサン・ディディエ地区を見学。

カフェ・バレッタでの休憩がおすすめです。

2日目 ル・カレ・デュ・パレでのワイン醸造学のアトリエとシャトーヌフ・デュ・パプ(Châteauneuf du Pape)の見学(ワイン試飲有)。

さらに:アヴィニョン・ツーリズムのガイド同伴による自転車での見学も可能です。

ちょっとした休憩をご希望ですか？

1日目 午前中、教皇庁宮殿、アヴィニョン橋、造幣局のファサードを望む宮殿広場、ノートルダム・デ・ドン大聖堂やローヌ川に張り出した、川沿いと当地方の驚くべきパノラマ風景が広がる素晴らしい公園、ロシェ・デ・ドン公園を見学。

午後にはプティ・パレ美術館と有名な古代ローマ時代の水道橋ポン・デュ・ガールを見学します。

2日目 ストリートアート散策コースや製造業者街でのショッピング。

ル・ニでリラックスしたひとときを自分にプレゼント！

さらに:夏にはガルドン川での水浴びを楽しむのがおすすめです。

3日間のご滞在ですか？

1日目:アヴィニオン観光。

2日目:アヴィニオン - アルル(Arles)間、アルピーユ山脈などを観光。

見学1:グラヴゾン(Graveson)村のアロマと香水博物館。 アルピーユ山脈とモンタニェットの丘(Montagnette)の間、この大自然の中に、オーガニックと自然に回帰した素晴らしい場所があります。 原点に立ち戻ってみましょう。ヨーロッパで最も美しいアランビック(蒸留器)のコレクションのひとつをごゆっくりご覧ください。アロマテラピーを学んだり、ハーブ庭園での贅沢なひとときを楽しんだりしていただけます。

次に、フェリブリージュ(Félibrige)の創立者で、高名な詩人であるフレデリック・ミストラル(Frédéric Mistral)を生んだ小さな村、マイヤーヌ(Maillane)へと旅を続けます。 詩人の足跡を辿って旅立ちましょう！アペリティブ(食前酒)の時間には、ロゼワインかパステイスを村のバーのテラスで味わってみてください。 フォンヴィエイユ(Fontvieille)方面へ進み、プロヴァンスのロマネスク様式の最も美しい例のひとつ、サン・ガブリエル礼拝堂(la Chapelle Saint Gabriel)へ。

次の見学地は、5000本ものオリーブの木に囲まれた11世紀建造のサン・ジャン礼拝堂(la Chapelle Saint Jean)の陰にひそんだマス・サン・ジャンの精油所(le Moulin à huile du Mas Saint Jean)です。先祖代々より家業を受け継ぐスルドン家が、12世紀のプロヴァンス様式の農家小屋で地元産のオリーブから素晴らしいAOCオリーブオイルを抽出しています。 娘と孫娘のアンとマガリが、オイルにかける情熱を皆様と分かち合い、製品のテストティンクを提案しています。

3日目:アルルとカマルグ

午前中に「ユネスコ文化遺産」か「ヴァン・ゴッホの足跡」をテーマにしたアルル観光をした後、カマルグ自然保護区に向かいます。 カマルグは鳥の楽園: その多くはカマルグに定住している留鳥ですが、渡り鳥もいます。 この湿地帯は鳥の渡り、特にツルの渡りを観察するには絶好の場所です。 フラメンコやセイタカシギ、ソリハシセイタカシギ、ヨシキリ、野生のハクチョウなどを観察することもできます。 ポン・ド・ゴー鳥類公園(le parc ornithologique du Pont de Gau)、ヴァカレス湖(l'étang de Vaccarès)や、巡礼地でありプロヴァンスの伝統が残る村、サント・マリー・ド・ラ・メール(Saintes Maries de La Mer)などを見学。 空と海に挟まれたこの村には、9世紀の要塞教会やカマルグ地方の伝統を紹介した博物館があります。

さらに:樹齢100年のプラタナスの木陰と穏やかで静かな雰囲気の中でのランチもおすすめです。





4日間のご滞在ですか？

リュベロン地方とフランスで最も美しい村々をめぐる一日をプラスするのがおすすめです。

アルピーユ山脈と地中海のはざまにあるリュベロン地方では多様な風景を見ることができます。旅程の最初にはルールマラン(Lourmarin)村と15世紀に建造され、ルネッサンス時代に増築された城を訪れます。次に、エギュブラン渓谷(des gorges d'Aiguebrun)のハイキングコースでリュベロンの山塊を横断し、ボニュー(Bonnieux)村へ向かいます。村の城塞からはカラヴァン渓谷(la vallée du Calavon)の驚きのパノラマ風景を楽しんでいただけます。

ゴルド(Gordes)村での昼食後、画家ヴァザルリや写真家ウィリー・ロニをはじめとする多くのアーティストを迎え入れたこの素晴らしい村を見学。



セナンク修道院見学：12世紀に建造され、非常に簡素な風格の修道院。現在、修道院は歴史的建造物に指定されています。見学ガイドツアーでは、修道院内の禁域と修道院附属教会を見学することができます。

この一日を通して、南仏特有の日干しれんが小屋に見とれてください。羊飼いの鄙びたあずまやとして使用されていた日干しれんが造りの小屋は、リュベロン地方の典型的な風景の一部をなしています

ルシヨン(Roussillon)村は丘の頂上に作られた村で、その土地は黄土のために利用されました。これらの旧採石場が、はっとさせる色の素晴らしい風景を作り上げています。散策コースも数多く設置されています。

さらに：夏には周辺全域で栽培されているラベンダー畑がシトー会様式の修道院と素晴らしいコントラストを作り出します。



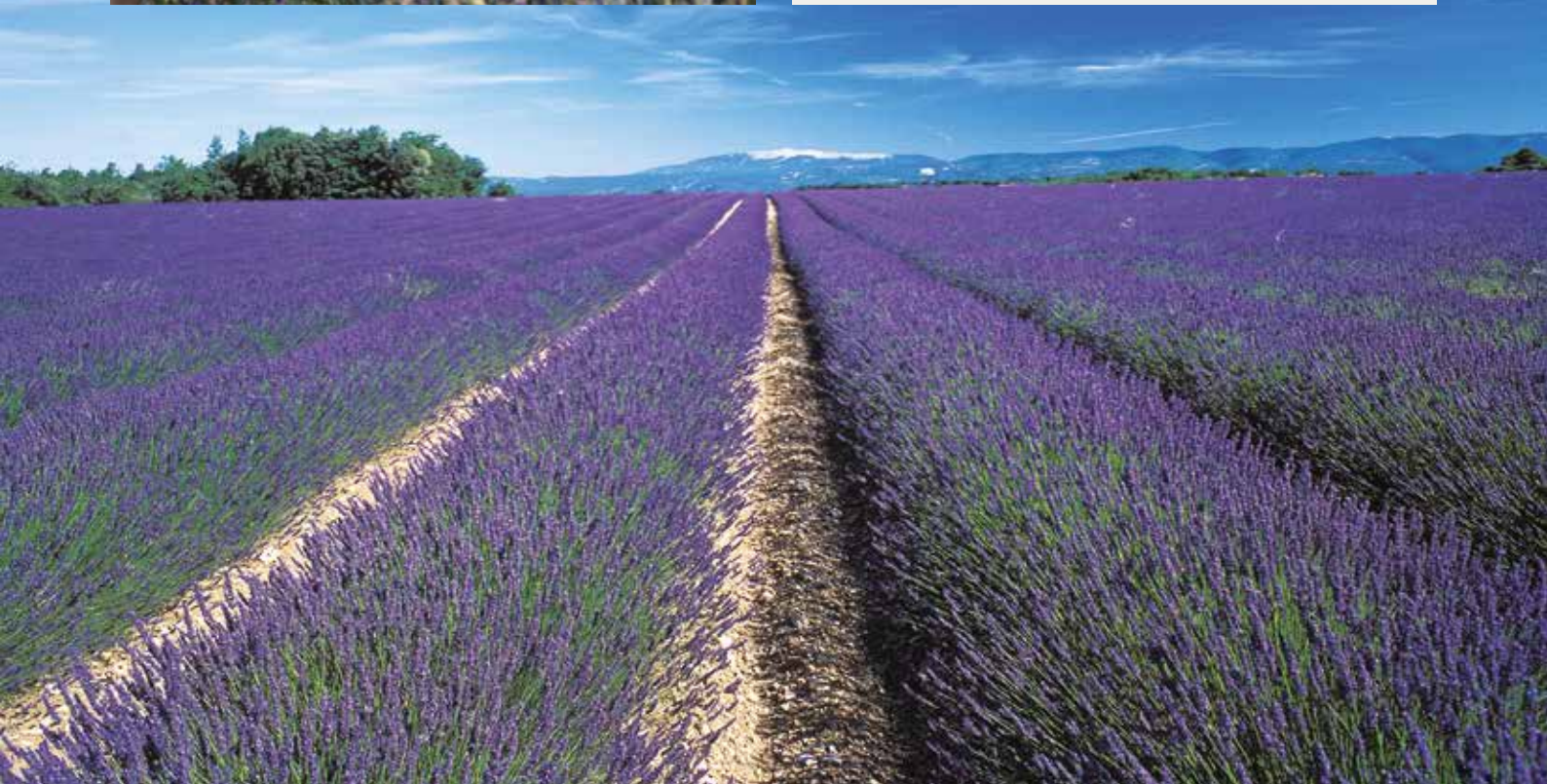
**4日以上のご滞在ですか？
7月～8月のご滞在ですか？
ラベンダーをご存知ですか？**

ラベンダーの開花の季節は大変短いものです：ヴァランソル (Valensole)、ソー (Sault)、リュベロン地方の青く染まった畑を称賛できる時期は6月最後の週から7月の第2週までです。

7月15日を過ぎれば、ラベンダーの収穫時期です！ ラベンダーの花が開花して新鮮な状態の時に畑を刈ります。上質のエッセンシャルオイルを得るために、収穫されたラベンダーはすぐに蒸留工場へ運ばれます。一部の蒸留工場では見学や製品の購入が可能です：レ・ザグネル製造所 (Distillerie les Agnells - Apt)、レ・クーレ製造所 (Distillerie les Coulets - Apt)、ル・ヴァロン・デ・ラヴァンド (Le Vallon des Lavandes - Sault)、アロマプラント (Aroma'Plantes - Sault)、ブルー・ダルジャン農園 (Ferme Bleu d'Argens - La Mure-Argens)、コッタ農園 (la Ferme Cotta - Puimoisson)、アンジェルヴァン農園 (ferme Angelvin - Valensole)、ラベンダー博物館 (Musée de la Lavande - Coustellet)、ラベンダー農園・製造所 (ferme lavandicole et distillerie - Lagarde d'Apt) など。

古代ギリシア・ローマ時代より、ラベンダーは治療と気持ちを静める効果で知られています。プロヴァンスの象徴でもあるラベンダーは、香水や化粧品、アロマテラピー製品に使用されるエッセンシャルオイル用に栽培されています。プロヴァンスでは細身のラベンダーとラバンディンの品種を生産しています。ラベンダー畑は数世紀来、私共の農業の一部となっています。

花畑を眺めることは、一種の魔法のスペクタクル。その香りに驚いていただけるに違いありません。



マルセイユ旧港での有名なカードゲーム中のセザール:

「君が俺の心を引き裂くぜ」

**マルセル・パニョル*の三部作を読んだことはありますか？映画化された作品はお好きですか？
そうであれば、この一日はもうあなたのものです！**

まず、このプロヴァンス地方の小旅行をフランスで最も古い都市、マルセイユにてスタートさせます。フォカエア出身のギリシア人達によって紀元前600年に作られたこの都市は、「フォカエアの都市」という意味のマッサリアと呼ばれていました。フランス最大の商業港でもあるマルセイユは、海と丘に挟まれた街です。松林や石灰質の岩石、灌木林や街をとり囲む野生の岩に囲まれた入り江などの素晴らしい風景を有しています。

プロヴァンス地方の都市、マルセイユの見逃せない観光スポットをご案内いたします: 19世紀に建造された標高162mの位置から海に張り出し、マルセイユの街を見守るノートルダム・ド・ラ・ガルド寺院(la Basilique Notre Dame de la Garde); マジョール大聖堂(Cathédrale de la Major); バロン・デ・ゾフ(Valon des Auffes)の小さな漁港など。続いて、有名な「ラ・カヌビエール - la Canebière」大通りにお連れします。この大通りは旧港と崖沿いの道に続いており、崖沿いの道からはフリウル島(les Iles de Frioul)、イフ城のあるイフ島(l'île du Château d'If)、地中海そしてマルセイユのカランク(Calanques de Marseille)などを望む絶景を楽しめます。

このプロヴァンスの旅のコースを続けるには、パノラマ風景が広がるジネスト峠(le col de la Gineste)のルートを辿り、マルセイユのカランク山塊(massif des Calanques de Marseille)を横断しながら、カシ(Cassis)村に到着します。

豪華な景観の中心部に位置したこの小さな漁港・停泊地では、湾に張り出している色とりどりのファサードに目を奪われることでしょう。

お客様のご都合に合ったお食事の後、ショッピングやカフェ、レストランなどが立ち並ぶ港沿いをゆっくり散歩していただけます。その後、お好みでカシの入り江を見渡せる湾岸クルーズや、この楽園の一角での海水浴をお楽しみください。

*マルセル・パニョル: フランスの小説家、劇作家、映画作家、監督。1895年2月28日オーバーニュ生まれ、1974年4月18日没。1929年3月に劇場で上演された『マリウス - Marius』で有名になる。



プロヴァンス地方の日差しがお好きですか？

クロッキー帳と画架を持って、画家の足跡を辿りましょう。

ヴァン・ゴッホの足跡: アルル - サン・レミ・ド・プロヴァンス (Saint Rémy de Provence)

2年以上もヴァン・ゴッホが滞在したプロヴァンス地方で、彼を魅了したのはその光でした。彼の足跡を辿り、彼が300点以上もの作品を描くために画架を立てた場所を発見してください。ゴッホが描いた光の中での素敵な散歩！

エクス・アン・プロヴァンス近辺のポール・セザンヌが描いた風景

セザンヌがエクス・アン・プロヴァンス周辺で好んで描いた風景、ビベミュスの石切り場(carrières de Bibémus)、シャトー・ノワールの森の松、サント・ヴィクトワール山の雄大な名所などを発見してください。

活動的な一日をご希望ですか？

レ・アル(屋内市場)で食べ物を買って、自転車でバルテラス島に出かけましょう。さらに ローヌ川をカヌーで下ってみてください。

さらに:冒険したい方には、ヘッドライトの光での夜の川下りがおすすめです。



歴史を辿る旅をご希望ですか？

歴史を辿る旅は、ノルマンディー地方以外にもあります。

プロヴァンス伯爵領アヴィニョンとヴナスク伯爵領 (le Comtat Venaissin) は、教皇に帰属した最後の領地であり、プロヴァンスにとっては1501年まで、教皇領としてはフランス革命まで、常に南仏に住むユダヤ人コミュニティの庇護の地でした。プロヴァンスの歴史上ではあまり知られていない内容ですが、非常に興味深いものです。公認ガイドが、「教皇のユダヤ人」と呼ばれていたプロヴァンス伯爵領のユダヤ人コミュニティの歴史を皆様にご紹介いたします。

プロヴァンス地方のユダヤ遺産をテーマにした滞在:アヴィニョン - カヴァイヨン(Cavaillon) - カルパントラ(Carpentras) - ペルヌ・レ・フォンテーヌ(Pernes les Fontaines) - リル・シュル・ラ・ソルグ - エクス・アン・プロヴァンスのレ・ミル収容所跡(le Camp des Milles)。

アンティーク探しをご希望ですか？

当地方で最も美しい村のひとつであるリル・シュル・ラ・ソルグ (L'Isle sur la Sorgue) が、アヴィニョンの近郊にあります。日曜日にはアンティーク市を散策してみましょう:テキスタイル、ガラス製品、陶器、陶器、陶磁器などを見つけることができます。さらに、地元特産品やチーズ、パン、ヌガー、カリソン、リュベロン地方で栽培されたチェリーをはじめとする旬の果物などを集めた食料品のマルシェもあります。フォンテーヌ・ド・ヴォークリューズから散策を続けるなら、リュベロン地方のゴルド (Gordes) へもすぐそこです。

伝統をお望みですか？

他にはない本物の体験をご提案します。

アヴィニョンのパレ・デュ・ルールを見学後、ソルグ (Sorgues) へ向かってください。歴史建造物にも指定されている一族の城では、マリヌとシャルル＝ユーベール・ドゥ・ブラント (Marine et Charles-Hubert de Brantes) がシンプルかつ魅力的なおもてなしをいたします。「傑出した庭園 - Jardin remarquable」にも格付けされているトスカーナ風の庭園 -

ブランチ、食事、アペリティフ、オーナーによるコンサートや見学などの企画も可能です。

フェスティバル・イベント

年間を通して
驚きがいっぱい

2019年の主なイベントスケジュール

1月:

シュヴァル・パッション(Cheval Passion):

1200頭の馬、90時間にも及ぶスペクタクル、250もの出店者が参加する馬術のフェスティバル。ガラ・デ・クリニエール・ドール(Gala des Crinières d'Or)の上演、キャバレー・エケストル(Cabaret équestre)なども催されます。



ヴェロ・パッション(Vélo Passion):

プロ・一般向け自転車見本市。競技会、イベント、展覧会など

2月:

フェスティヴェール(Fest'hiver):

当地方の若手劇団を開拓するチャンス

レ・イヴェルナル・ダヴィニョン(Les Hivernales d'Avignon):

コンテンポラリーダンス フェスティバル

3月:

ラ・マカ (LA MACA):

コンテンポラリーアート展覧会

南仏映画芸術会議(Rencontres Cinématographiques du Sud):

第7芸術の専門家と一般客との出会いの場。
数多くの映画館で約20本の映画作品のプレミア上映が行われます。

ツール・デ・ランパール (Le tour des remparts):
スポーツイベント

フェスティバル・アンドルー(Festival andalou):
アンダルシア文化を称えるダンス公演、音楽、展覧会など。

4月:

アヴィニョン大見本市(Grande foire d'Avignon):
アール・ド・ヴィーヴル、ガストロノミーなど

5月:

レ・フ・リール・ダヴィニョン(Les Fous rire d'Avignon): ユーモアフェスティバル

ル・プランタン・デ・クレアトゥール(Le Printemps des Créateurs):

市内の広場や道端で、クリエイターや工芸職人が作品を販売。

ラ・ニュイ・ユーロピエンヌ・デ・ミュゼ(La Nuit Européenne des Musées):

国家的イベント。市内の美術館が夜間一般公開されます。

6月:

ランデヴー・オ・ジャルダン(Rendez-vous aux jardins):

公立または私立の庭園・公園の見学。講演会も有。

レ・エスティヴァル・デ・コート・デュ・ローヌ(Les Estivales des Côtes-du-Rhône):

近隣の産地のワイン試飲や生産者に会える3日間(夜間)。
音楽の流れる美しい庭園で行われます。

7月:

アヴィニョン映画祭(Festival de théâtre):

世界中から集まった1000以上の劇団、1400以上のスペクタクル上演など。演劇、音楽劇、舞踊、カフェ・テアトル、ストーリーテラー、曲芸、パントマイム、詩など、あらゆる分野の舞台芸術が集結します。
フランスで唯一のイベントです!



フェスティバル・レゾナンス (Festival Résonance) :
サン・ベネゼ橋などの名所で行われる現代音楽祭。

8月 - 9月:

アヴィニョン・ジャズフェスティバル (Avignon Jazz Festival):
8月上旬

ヴィブラッション(VIBRATIONS):

8月中旬～9月30日

独自の経験 - モニュメント映像のスペクタクル : 14台のプロジェクターを使用したモニュメント映像が、教皇庁宮殿の栄誉の中庭 (la Cour d'Honneur) の4つのファサードに映写されます。

バン・デ・ヴァンダンジュ (Ban des Vendanges):
コート・デュ・ローヌのブドウ収穫開始を告示するイベント (8月下旬)。



9月

メディエヴァル・デ・カルム (Médiévales des Carmes):

中世の雰囲気の中、カルムの建造物全体で開催: 中世を紹介するコーナー (闘技 - ゲーム - 音楽 - ダンスなど)、中世のマルシェ、討論会、中世の饗宴 (バンケット) など。

教皇庁地区の10km (Les 10 kms de la Cité des Papes):
スポーツイベント

シェフ達のピクニック (Le pique-nique des Chefs):
9月下旬

10月

イタリア週間 (Semaine italienne) :

お祭りの雰囲気の中でイタリア文化を祝う1週間: スペクタクル、展覧会、グルメマルシェなど。

アート散策コース (Le parcours de l'Art) :
3週間、約30名のアーティスト (造形作家、画家、写真家など) が街中に作品を展示します。

コート・デュ・ローヌ マラソン (Le marathon des Côtes du Rhône):
10月の日曜日

11月

ミルヴァン (Millevin):

コート・デュ・ローヌ地区とアヴィニョンでのヴィンテージを発表するお祭りイベント: ワイン組合のパレード、テイスティング・アトリエなど。

12月 - 1月上旬:

クリスマス・イベント:

サントン人形、街路でのパレードやスペクタクル、ノエルの迷路、手作りアトリエ、グルメマルシェやクリエイターのマルシェ、子供村などもあります。さらに、クリスマス数日前に設置される教会内のクレッシュ (キリスト誕生の場面を再現した飾り)、プロヴァンス文化のメッカであるパレ・デュ・ルールのクレッシュやプロヴァンス地方の伝統の習わしなど。



すべてのイベントスケジュールは
www.avignon-tourisme.comにてご覧ください





ビジネス向け観光

アヴィニョンを お選びください

皆様のご要望に合わせたイベントを実現
するために、アヴィニョンを選ぶ5つの理由

アヴィニョンはビジネスイベントの戦略的な交
差地点です

大容量の見本市会場

高速道路のアヴィニョン南出口(Avignon Sud)から
約2分:一階部分に7つのホール: 総面積50 000 m²
の敷地に15 000m²の見本市スペース、無料駐車場、
大規模なイベントの開催が可能な920席を有した会議
室:プロや大衆向け見本市、会議、コンクールなど。

お問い合わせ: www.avignon-congres.com

セミナー開催に対応したホテルプラン

教皇庁から徒歩圏内のホテルの客室1700室を含む
4200室

アヴィニョンにはビジネスミーティングやセミナー用の
会議室を設置したホテルが数多くございます。

お問い合わせ:観光局 - acad@avignon-tourisme.com

イベント・サービス

アヴィニョン・ツーリズムのレセプション・サービスは会
議・ミーティング・セミナーの際のリフレッシュを目的と
したスポーツ・娯楽・文化イベントをご提案しておりま
す。ご依頼の上、個人に合わせたお見積もりをいたしま
す。

お問い合わせ: groupreservation@avignon-tourisme.com

教皇庁宮殿の中心にある国際会議センター

ユネスコ世界遺産に登録されている独自の場所。お客
様の会議、協定、セミナーやミーティングの企画準備を
最初から最後まで一人の担当者がサポートさせていた
だきます。

会議センターには風格ある会議室を16室(20~536
名収容可の会議室、700名収容可のレセプション、
1800 m² の広さの展示会スペース)ご用意してお
ります。

充実した鉄道・航空の連絡網

(アヴィニョンにお越しになるには - *Venir à Avignon*
ページを参照)



アヴィニョンに お越しになるには

アヴィニョンTGV駅

アヴィニョンへの通常運行例:

パリ・リヨン駅(2時間38分)

1日にTGV17本

ロワシー・シャルル・ドゴール駅(3時間)

1日にTGV11本

リール(4時間30分)

リヨン・サン＝テグジュペリ駅(1時間30分)

リヨン・パール・デュール駅(1時間10分)

マルセイユ(30分)

ユーロスター・ロンドン - セント・パンクラス駅

年中運行(7時間)

マドリッド(8時間)

バルセロナ(4時間30分)

ブリュッセル(5時間30分)

ジュネーブ(4時間)

鉄道シャトルバス『ラ・ヴィルギュール』

TGV駅からアヴィニョン市内まで(所要時間6分)

1日70便運行(6:00~22:30)。

タクシー

国際空港

+ 33 (0)4 90 82 20 20

国際空港

アヴィニョン・コーモン空港

市内から10分

ビジネス・プライベートジェット

イギリスからの直行便

サウサンプトンとバーミンガムから毎土曜日運行(5月~9月)

ロンドン:7月~8月

追加情報は空港のサイトwww.avignon.aeroport.frをご覧ください

マルセイユ・プロヴァンス空港

アヴィニョンから45分

ターミナル1 - 多くの国内線と国際線が運航。

ソウル、モントリオール、トロント、テルアビブへの直行便。

ターミナル2 - ローコスト専用ターミナル

モンペリエ

アヴィニョンから50分

フランス国内からの直行便:

リヨン、ナント、パリ・オルリー、パリ・ロワシー

ヨーロッパからの直行便:

アムステルダム、ブリュッセル・サウス・シャルルロワ、フランクフルト・ハーン、ロンドン・ガトウィック、マドリッド。

アヴィニョンが皆様のお役に 立たせていただきます

スタッフチームが皆様のご要望をお伺いいたします。

団体 - MICEのご予約

ご要望に合わせた見学・パッケージツアー・滞在企画の単独窓口:

アヴィニョン・ツーリズム団体受付窓口

お問い合わせ:

groupreservation@avignon-tourisme.com

+ 33 (0)4 90 27 50 50

マルチリンガルでの受付

個人客向け予約

お問い合わせ:

acad@avignon-tourisme.com

+ 33 (0)4 32 74 32 74

営業部

お問い合わせ:

マリアヌ・クーロン(Marianne Coulomb)

m.coulomb@avignon-tourisme.com

+ 33 (0)4 90 27 51 14

プレスお問い合わせ

シルヴィ・ジョリー(Sylvie Joly)

s.joly@avignon-toursime.com

+ 33(0)4 32 74 36 54

時間帯・料金

教皇庁宮殿

期間

年中無休

窓口は閉館の30分前に閉まります。

9月1日～11月1日:9:00～19:00

11月2日～2月28日:9:30～17:45

3月1日～3月31日:9:00～18:30

4月1日～6月30日:9:00～19:00

7月1日～7月31日:9:00～20:00

8月1日～8月31日:9:00～20:30

入場料金 (企画展を除く)

一般料金 12 €

割引 / 団体料金 10 €

学校料金 6,50 €

アヴィニョン橋

期間

年中無休

窓口は閉館の30分前に閉まります。

9月1日～11月1日:9:00～19:00

11月2日～2月28日:9:30～17:45

3月1日～3月31日:9:00～18:30

4月1日～6月30日:9:00～19:00

7月1日～7月31日:9:00～20:00

8月1日～8月31日:9:00～20:30

入場料金 (企画展を除く)

一般料金 5 €

割引 / 団体料金 4 €

学校料金 3,50 €

教皇庁宮殿とアヴィニョン橋

入場料金 (企画展を除く)

一般料金 14,50 €

割引 / 団体料金 11,50 €

学校料金 8 €

教皇庁宮殿とアヴィニョン橋

一般料金(税込):入場料に10%の

付加価値税

団体料金は20名様以上に適用されます。

無料:団体(大人):同伴者1名

団体(学校):生徒10名に対し同伴者1名

8歳未満のお子様 / バス運転手

ヴィブラッション

(VIBRATIONS)

期間

8月中旬～9月30日

上演時間:21:15～22:15

料金

一般料金 12 €

割引 / 団体料金 10 €

団体用:groupreservation@avignon-tourisme.com

地方 ツアー料金

税込料金: 付加価値税20%

モニュメントの入場料は含まれておりません。

教皇庁宮殿あるいは橋

平日 120 €

日曜 140 €

祝日 180 €

教皇庁宮殿と橋

平日 160 €

日曜 190 €

祝日 250 €

半日(3時間)

平日 160 €

日曜 190 €

祝日 250 €

1日(6時間)

平日 260 €

日曜 350 €

祝日 380 €

地方 ガイドツアー料金

フランス語・ドイツ語・英語・スペイン語・イタリア語・日本語・オランダ語・ポルトガル語・ロシア語・ウクライナ語によるガイドツアー。

税込料金: 付加価値税20%

モニュメントの入場料は含まれておりません。1日ツアー＝ガイドの 昼食はお客様負担です (ご相談ください)

ご依頼の上、お見積もりいたします。

平日

半日(4時間) 185 €

1日(8時間) 350 €

延長1時間 45 €

日曜

半日(4時間) 230 €

1日(8時間) 400 €

延長1時間 55 €

祝日

半日(4時間) 280 €

1日(8時間) 515 €

延長1時間 65 €

ガイドツアーの

ご利用条件 (10ヶ国語対応)

キャンセルに関する条件

見学48時間前にキャンセルすることなくご確定いただいたツアーは費用全額、見学8日までにキャンセルした場合は費用の一部をお支払いいただきます。

ガイド1人当たりの最大人数

団体(大人):40名

団体(学校):生徒30名

地方見学ツアー(観光バスでの移動):

ガイド1人当たり、50名(引率者も含む)。

この冊子記載の料金は参照価格です。

契約上の効力はありません。

